

回復期実績報告

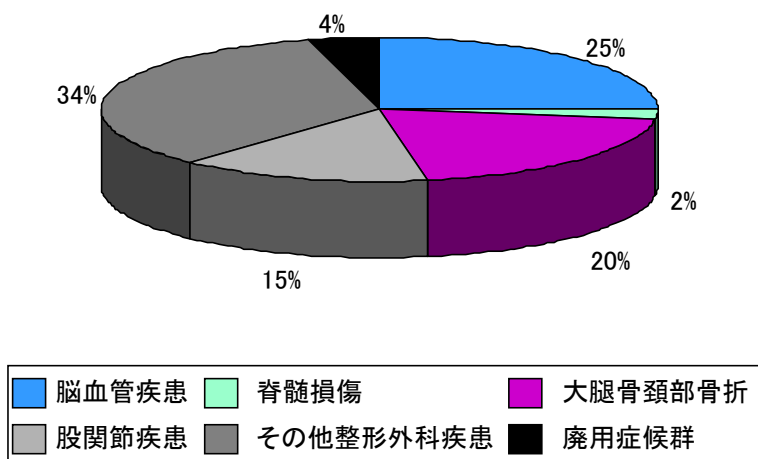
平成21年度退院患者実績報告 (平成21年4月1日～平成22年3月31日退院患者様)

平成21年度の実績報告を1. 在宅復帰率、2. 退院先別のリハ効果(日常生活機能指標・FIM)を中心に報告します。

対象者内訳

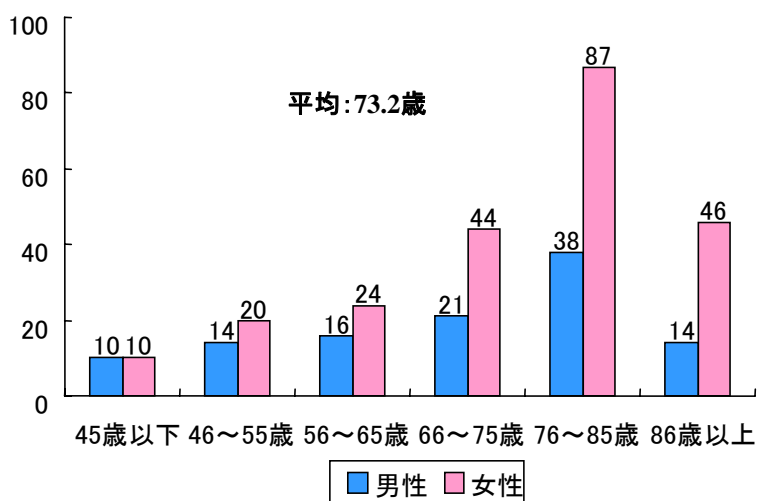
①疾患割合

疾患割合	人数
脳血管疾患	86
脊髄損傷	8
大腿骨頸部骨折	68
股関節疾患	51
その他整形外科疾患	117
廃用症候群	14
合計	344



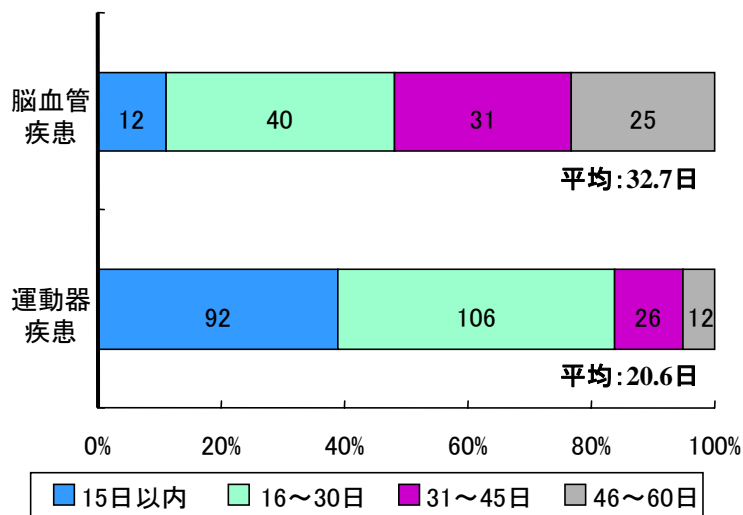
②年齢割合

年齢割合	男性	女性
45歳以下	10	10
46～55歳	14	20
56～65歳	16	24
66～75歳	21	44
76～85歳	38	87
86歳以上	14	46
合計	113	231

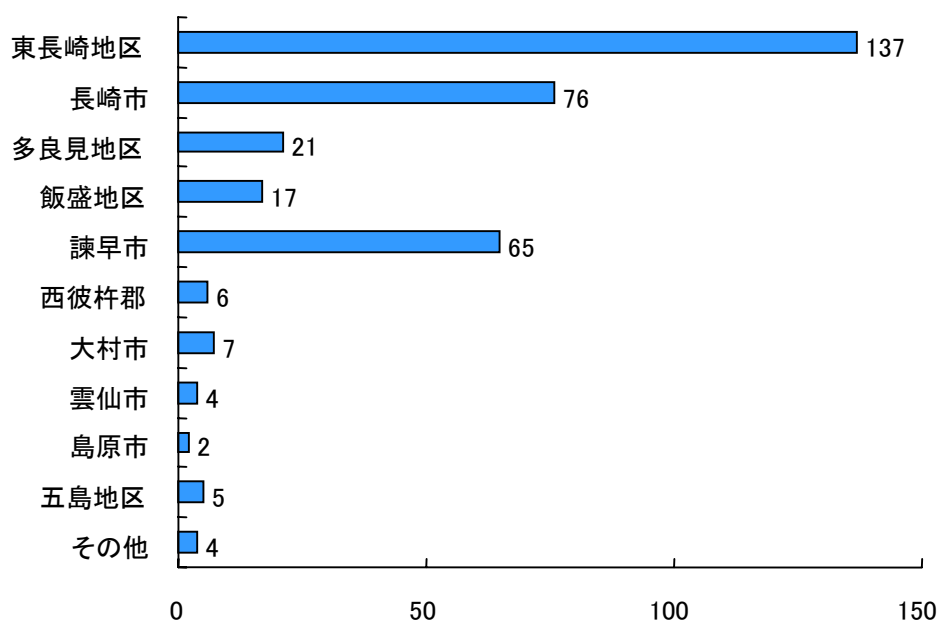


③入院までの期間

	脳血管疾患	運動器疾患
15日以内	12	92
16～30日	40	106
31～45日	31	26
46～60日	25	12
合計	108	236



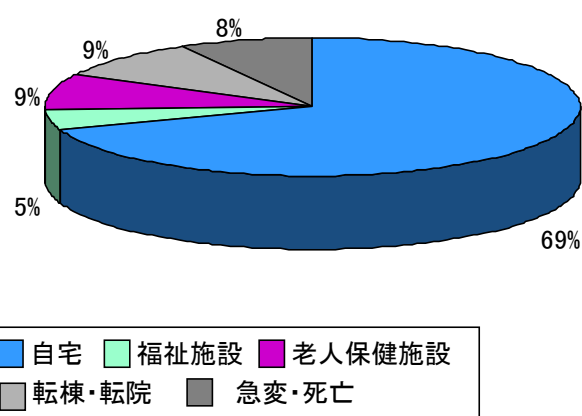
④ご自宅の地域



退院先	人数
東長崎地区	137
長崎市	76
多良見地区	21
飯盛地区	17
諫早市	65
西彼杵郡地区	6
大村市	7
雲仙市	4
島原市	2
五島地区	5
その他	4
合計	344

実績報告1. 退院先

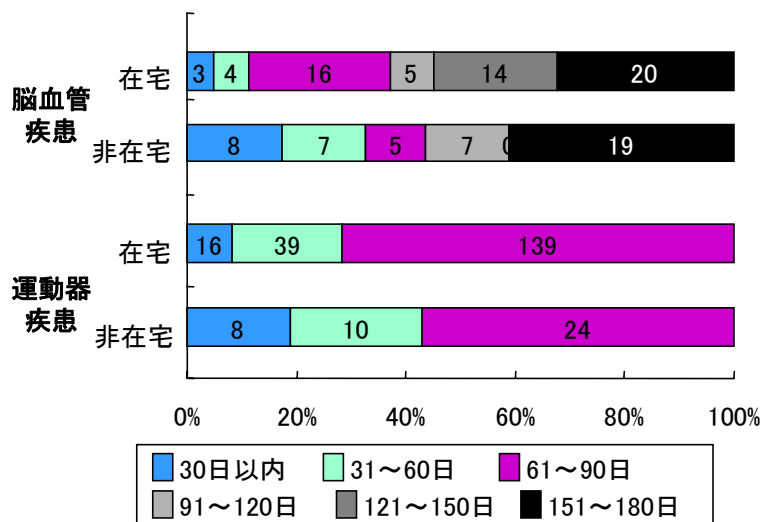
退院先	人数	割合
自宅	239	69%
福祉施設	16	5%
老人保健施設	30	9%
転棟・転院	31	9%
急変・死亡	28	8%
合計	344	100%



ご自宅への退院が69%で、『在宅』扱いとなる福祉施設を含めると在宅復帰率が74%となる。

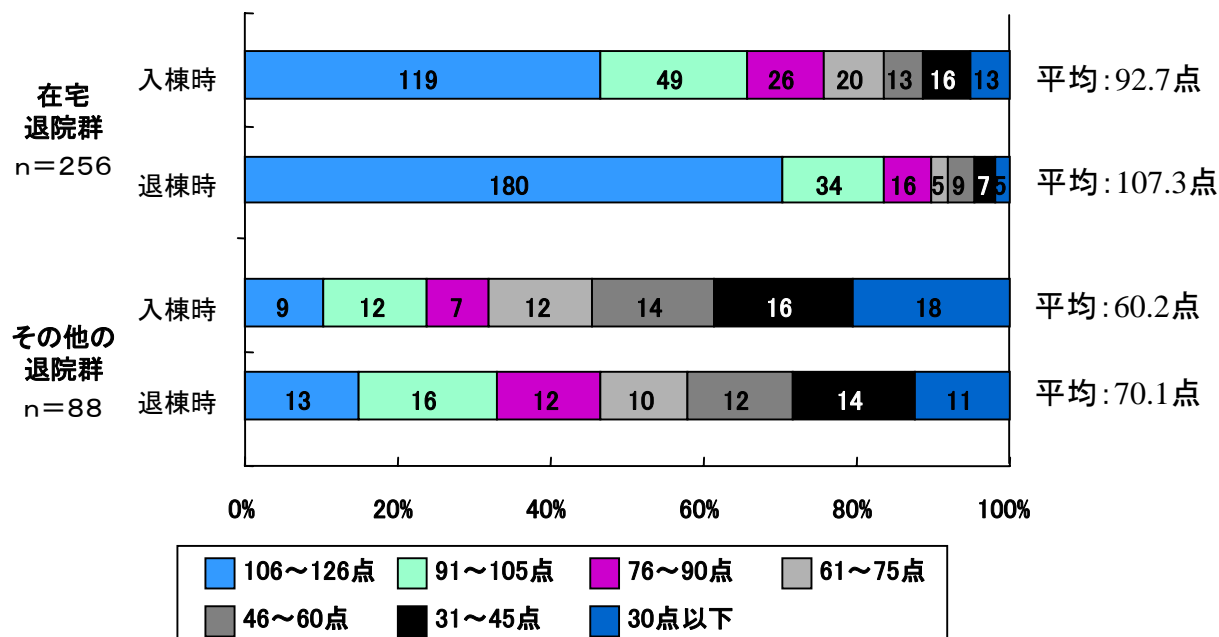
実績報告2. 在院日数

	脳血管疾患	運動器疾患
30日以内	11	24
31～60日	11	49
61～90日	21	163
91～120日	12	
121～150日	14	
151～180日	39	
合計	108	236



脳血管疾患の場合、入院可能日数が高次脳機能障害がある場合は180日、高次脳機能障害がない場合は150日となっている。また、90日以内で退院される方が約4割となっており、比較的症状が軽い方がこの期間で退院される。高次脳機能障害があったり、重症である方は日数ギリギリまでリハビリを継続される方が多い。

実績報告3. FIM指標の変化

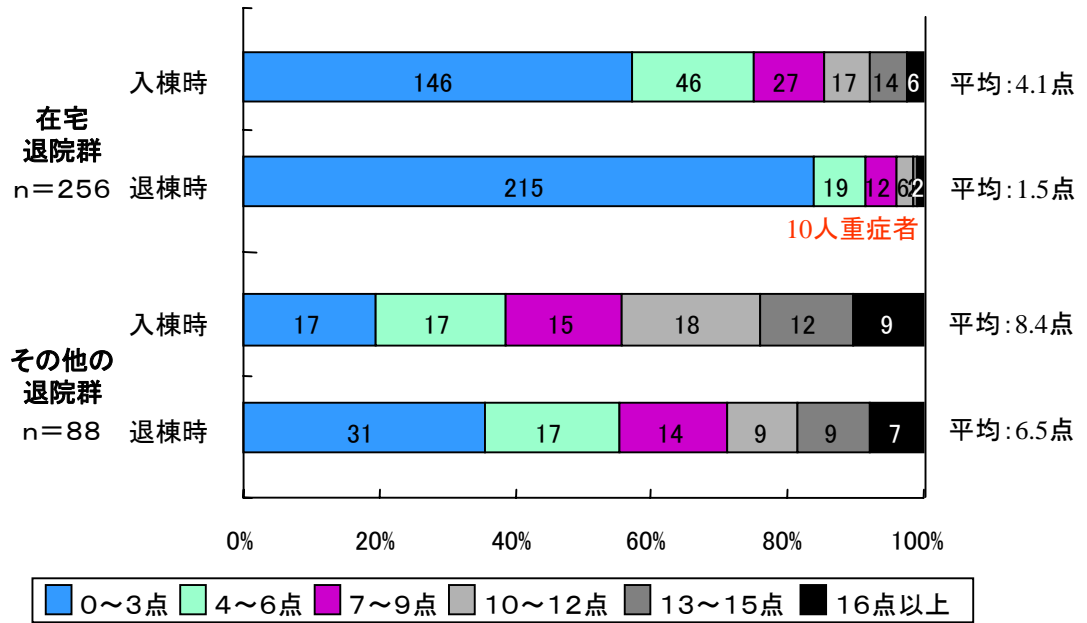


FIMとは、機能的自立度評価表（Functional Independence Measure）の略であり、日常生活で行っている活動を7点満点の18項目（食事・更衣・移動・排泄・理解・記憶など）で評価しており、全項目自立されていると126点となる。また、一般的に器具などを使用しての修正自立が6点とされており、合計108点付近が在宅復帰の目安となっている。

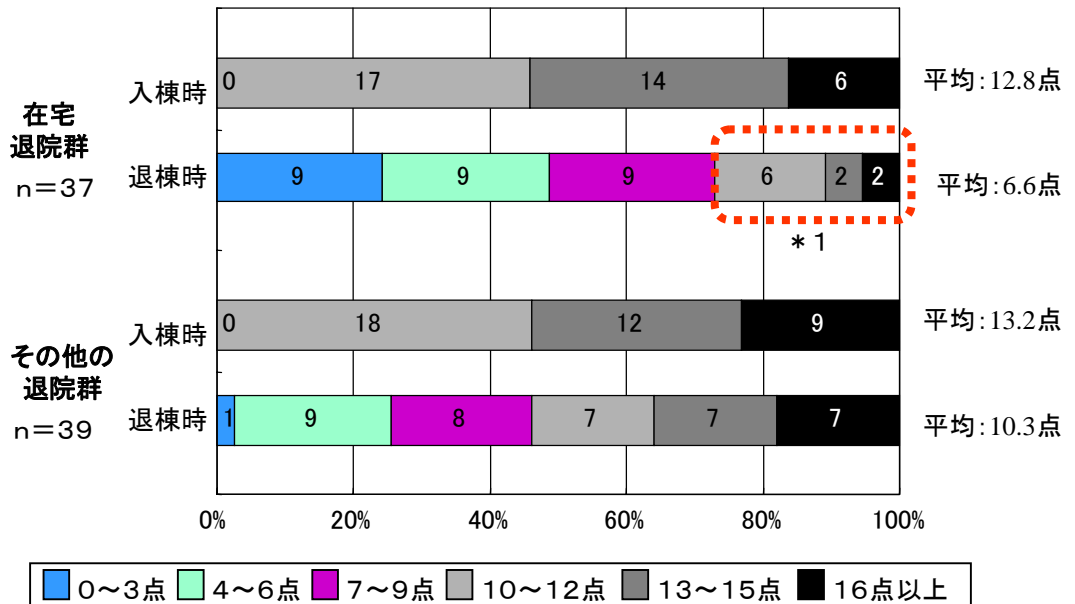
入院時のFIMは平均84.3点であり、合計106点以上が約37%であるのに対し、退院時FIMは平均97.9点であり、106点以上は約56%と改善している。

実績報告4. 日常生活機能指標の変化

日常生活機能指標は看護師が行う評価であり、点数が低いほど介助量が少なく、自立度が高いという事になる。全患者様の入院時の平均点は5.4点であり、重症者と言われる10点以上の割合が、22%となっている。退院時の平均点は2.7点であり、重症者の割合は10%に低下している。以下に退院先別に見たスコアの変化を示す。



* 入棟時、重症者だった76名を退院先別にスコアの変化を示す。



入棟時、日常生活機能指標で10点以上の重症患者様の約50%が在宅復帰されている。また、退院時スコア10点以上の患者様も10人(*1)在宅へ結びつけることができた。